

令和3年度全国保健所長会総会の開催にあたって（挨拶）

令和3年度全国保健所長会総会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。
保健所長の皆様方には、日頃から当協会の事業にご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げますとともに、昨年初めから2年という長い間、新型コロナウイルス感染症に対峙されてきたことに対し、心から敬意を表する次第です。

さて、新型コロナウイルス感染症は世界各国で蔓延し、犠牲者は5百万人を超えています。これは、人類にとって、第一次世界大戦直後に全世界で大流行したスペイン風邪以来の公衆衛生上の最大の危機と云えます。

過去にも人類は痘瘡やペストなどの脅威にさらされ、数多くの人々が犠牲となっています。これらが流行した時代に比べ、医療や衛生水準が飛躍的に向上した現代において、これほどに被害が拡大するとはだれもが想像し難いことであったと思います。

今や、国際交通が発達し、世界のどこでも短期間で往来できる環境下において人的交流が活発化し、何時、どこから、どのような感染症がもたらされるのかわからない状況にあります。

国民の生命を守るため、第一線でご活躍されている保健所や地方衛生研究所の体制強化は待ったなしであると考えています。

ご承知のように、当協会は、政府が中心となって推進する公衆衛生事業を民間側から援助する組織として、明治16年に設立された「大日本私立衛生会」を前身として、今日まで、全国衛生部長会をはじめ全国保健所長会や全国保健師長会の活動を支援して参りました。

今回の新型コロナウイルス感染症については、本年度から厚生労働省から健康危機管理時対応体制整備事業の委託を受けて、感染症の感染拡大により、自治体職員だけでは対応が困難となったときの支援策として、保健師・医師などの外部の専門職の方々からも支援が受けられるよう、「IHEAT」人材バンクシステムを構築し、6月から運用を開始しております。

現在、2千6百人余の方々に登録いただいておりますが、運用は各道府県を窓口としており、現在41都道府県が利用登録いただいております。

今、これまでの変異株より感染力が数倍高いといわれているオミクロン株が再流行しつつあります。いつどの県で大規模感染が発生し、体制が逼迫するか分かりません。

このシステムは容易に応援調整が可能で有用性が高く、是非、全国の自治体で活

用していただきたく、人材確保の一助となることを期待しております。

また、本年10月からは、感染症に係る保健活動のマネージメントを担う人材の育成を目的として、行政支援リーダー研修を行っています。来年には、専門的立場から指導的役割を担うスーパーバイザー研修も実施する予定です。

12月14日には、昨年に引き続き、今後の発生に備えた体制強化に向けてと題して、新型コロナウイルス感染症に関するシンポジウムを開催いたしました。シンポジウムでは、WHO 西太平洋事務局を初め厚生労働省や自治体の行政関係者の方々と交えて、対策の好事例や最新の知見、今後の方向性など様々な観点からご論議いただきました。

このシンポジウムの模様は当協会のホームページで1月下旬から2週間、動画配信する予定です。ご参加ができなかった方々には、是非、視聴いただければと思います。

最後に、今年も残り10日ほどとなりますが、来年こそ国民が普通の生活にもどり、皆様方にとっても良い年になることを願うとともに、皆様方のご健勝と今後のご活躍を祈念して挨拶いたします。

令和3年12月20日(月)

一般財団法人日本公衆衛生協会
理事長 松谷 有希雄